

主 題：いやしの主

聖書箇所：イザヤ書 53章7-12節

イザヤはこの53章で、この世に来られるはずの一人の「正しいしもべ」、そのように11節に記されていますが、そのしもべについて教えました。そして、このしもべこそ、約束の救い主であると、そのことを私たちは知っています。イザヤはそのようなお方が来られることを預言し、私たちはその救い主がすでに来られたことを告白する者です。この救い主、この約束の主こそ主イエス・キリストであると私たちは信じています。では、どうして、このイエス・キリストがイザヤが預言した救い主なのか？どうしてそのように信じることが出来るのでしょうか？それは、私たちが前回から始めているように、イザヤが記したこの約束の救い主の記述と、イエス・キリストご自身を比較した時に明らかになります。

イザヤは私たちに、このような救い主が来られる、この方はこのようなことをなさると教えてくれました。そして、その記述から約700年経った時に、その記述通りの歩みをなさった方、その方を私たちは聖書を通して知ることが出来ます。ですから、今私たちはもう一度このイザヤ書53章から、イザヤが預言した約束の救い主、救世主とはどのようなお方なのか、どのようなことをなさる方なのか、そのことをごいっしょに見ていきます。その時に自ずと私たちは、その方がいったいだれなのかを知ることになります。私たちが願うことは、このみことばを見ることによって、ここにいる一人ひとりがこの約束の救い主、あなたを救ってくださるこの救い主を、あなたの救い主として信じ、この救いに与ってくださることです。

イザヤは約束の救い主の記述を始める前に、どうして私たちに人間に救い主が必要なのかということを書いていきます。彼は言います。「なぜなら、人間はみな例外なく罪人だから、みな罪人だから救い主が必要だ。救いがいる。」と。

A. 人の罪 1-3節

1. メッセージの拒絶 1節

2. 救い主の拒絶 2-3節

すでに見て来たように、1-3節には「人間の罪」が記されていました。いろいろな悪いことをする、それを私たちは「罪」と言います。でも、一番大きな罪は神に対するものです。神のメッセージに耳を傾けようとしない、それを受け入れようとしないことです。また同時に、その救い主ご自身を、神ご自身を受け入れようとしないことです。人々はそのような歩みをしているとイザヤは言うのです。神のメッセージを聞こうともしないし、救い主自身を受け入れようともしない、このような大きな罪を人間は例外なく犯しているのです。神に逆らい続けている私たち、神に背き続けている私たち、神の命令に耳を傾けようとせずに自分勝手に好き勝手に生きている私たち、そのような私たちに神はずばらしい祝福を与えてくださるのです。

B. 主の恵み 4-9節 このような罪人のために救い主が来られ、死んでくださる

父なる神は私たちに、どのような祝福、どのような恵みを与えようとしてくださっているのでしょうか？4-9節には「主の恵み」が記されています。このような罪人のために救い主が来られ、死んでくださるのです。すでに、私たちはこの中で二つのことを見ました。

1. 死の目的 4-6節 だれのために死なれたのか？→私たち罪人の身代わり

一つ目は、このイザヤが言います。私たちが覚えなければならないのは、その恵みがどんなにすばらしいかということ、この死の目的を知ることが必要だということです。つまり、この約束の救世主がいったいだれのために死のうとしておられるのか、だれのために死なれるのか、そのことを覚えることが必要なのです。そのときに、神がどれ程あなたを恵んでおられるのか、あなたを愛しておられるのか、これが分かるのです。イザヤは言いました。「その救世主はあなたのために、あなたの身代わりとなって死ぬ。」と。私たち人間のすべての罪を負ってくださり、そして、そのさばきを受けてくださる、これがこの救世主が、あなたに対して示してくださっている愛です。救世主は喜んであなたのためにいのちを捨ててくださったのです。あなたの身代わりとして彼は死んだのです。

2. 死の理由 5b節 何のために死なれたのか

また、イザヤはその死の理由について言います。5節に記されていました。何のために、だれのためにこの救世主が死なれたのか？それはこの救い主を信じるあなたに平安と罪の赦し、いやしを与えるためであると、私たちはすでに見て来ました。しかし、悲しいことは、あなたのために救世主が来られ、

あなたのためにすばらしい救いを備えてくれたにも拘わらず、多くの人々がそれを知らないということです。イザヤはそのことを嘆いています。どの時代でも多くの人々がそのことを嘆きました。今の私たちも同じです。こんなにすばらしい救い主がおられるのにあなたはそれをその方を知らないと。

3. 死の有様 7-9節 どのように死なれたのか

今日、私たちが見る7-9節には「死の有様」が記されています。彼がどのように死なれたのか？イザヤはここで二つのことを教えてください。一つは、この死は「主ご自身の選択」であったということです。そして、「主の埋葬」について非常に大切なことをイザヤは預言します。

1) 主ご自身の選択 7-8節

7-8節「彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。ほふり場に引かれて行く小羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。：8 しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれたことを。」

ここには五つのことばが記されています。すべて「死」を表わしています。「痛めつけられた」「苦しんだ」「しいたげ」「さばき」「生ける者の地から絶たれた」。これらはすべて「死」を表わしています。ただの死ではありません。そこには大変な苦しみがあったことをこのみことばは表わしています。

「痛めつけられた」＝上から非常に強く圧迫されるという意味です。自分の上に重くのしかかって来るような苦しみを表わします。

「苦しんだ」＝ただの苦しみではなくてひどい苦しみです。

「しいたげ」＝この救い主は虐待される、大変な扱いを受けるのです。捕らえられ縛られ、そして、

「さばき」＝さばかれると言います。さばきの結果、「死」が宣言されます。

「生ける者の地から絶たれた」＝彼はこの地上にあってその生活から絶たれるということです

しかし、この箇所を見た時にこのように死が記されているのですが、しかも、苦しみが記されているのですが、同時に、この救い主、この正しいしもべは、そのようなことに対して全く不満を述べていません。そこに彼自身の怒り、また、その運命をのろうようなことは何一つ記されていないのです。つまり、イザヤが教えることは、この救世主は大変な苦しみを経験し、そして、死へと至るのですが、その中において彼は何一つ不平不満を言わないのです。そして、そのような形で死を迎えるこのしもべに対して人々は、彼がなぜ死を選び、なぜ死んで行こうとするのか、その理由が分からないということです。

しかし、この7-8節のみことばを見ると、まさに、これは主イエス・キリストのことを語っていませんか？主イエス・キリストが十字架に架けられたのはさばきを受けるためでした。日曜日にイエス・キリストを歓迎した者たちの多くが、数日後には「イエス・キリストを殺せ！」と叫ぶのです。彼らはこのイエス・キリストをののしり、そして、偽りの証言をもってしても何とか彼を有罪にして彼を殺そうと企みました。

しかし、その中において、主イエス・キリストは彼らに対して怒りを覚えることもなく、彼らをののしることもなく、却って、彼らのために祈られ、そして、十字架に架かっていかれたのです。イエスのお姿を見る時に、イエスはさばき主に対して何もお答えにならなかったのです。イエスを嘲る者たちの声を聞いていながら彼らに対して反論しなかったのです。そして、自分から十字架に従って行かれました。裁判官もそのことに驚きました。無実でありながら自ら十字架に架かろうとしているイエスを見て、彼は不思議に思いました。まさに、イザヤが言った通りです。「ほふり場に引かれて行く小羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。」

いけにえとしてささげられる小羊は何も言いません。毛を刈ってもらった雌羊は何も言いません。従順に従うのです。まさに、そのようにこのお方は死に向かって従順に従って行かれたのです。パウロはこのことをこのように言っています。ピリピ2：8「キリストは人としての性質をもって現われ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われたのです。」、パウロは言います。このイエス・キリストはすべての点において、父なる神のご計画、みこころに従って生きられた。しかも、死に至るまで従順に従い続けたと。まさに、今私たちが見て来たイザヤが表わした約束の救世主、その方がイエスであるということ私たちがこれだけでも知ることが出来るのではないのでしょうか？

主イエスの死

さばきの後、ピラトはイエスを十字架につけるために群衆に引き渡します。ヨハネ19：16に記されています。「そこでピラトは、そのとき、イエスを、十字架につけるため彼らに引き渡した。」、あたかも、彼らがイエスのいのちを支配し、イエスを生かすこともイエスを殺すことも人間の手に委ねられていると人々は思っていました。ところが、そのような死に関してイエスはこのように言われています。ヨハネ10：18「だれも、わたしからいのちを取った者はいません。わたしが自分からいのちを捨てるので

す。」、だれもわたしからいのちを奪うことは出来ない、わたしが自分からいのちをささげるのだと。つまり、人間は、なぜイエスがこの世に来られたのか、なぜイエスが十字架に架かっているのか、その目的を全く理解していなかったのです。ちょうど、このみことばが言うとおりです。「彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれたことを。」つまり、イザヤが言ったように、だれ一人としてなぜイエスが十字架に架かろうとしているのか、架かっているのか、その目的を理解していなかったのです。

イエスは自分から十字架に架かったのです。ご自分のうちに罪がないことは群衆だけでなく、裁判官だけでなく、ご自身もちゃんと分かっておられたのです。しかし、それでいながら、イエスは十字架に架かって行かれたのです。何のためでしょう？私たちに救うためです。あなたを救うためです。パウロはⅡコリント5：21でこのように言っています。「神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方であって、神の義となるためです。」とあります。あなたが義となるために、つまり、あなたが救われて、罪から解放されて生まれ変わり、そして、天に国籍を持つ者として変えられるために、罪のない方があなたの罪を負って、あなたが受けなければならない罪のさばきを受けてくれたというのです。ヨハネもⅠヨハネ3：5でこのように言っています。「キリストが現われたのは罪を取り除くためであったことを、あなたがたは知っています。キリストには何の罪もありません。」と、同じことを言っています。主イエス・キリストがこの世にお生まれになったその目的は何だったのか？あなたの罪を取り除くため、あなたを罪から救い出すためです。主イエス・キリストは自ら進んでそれをしてくださったのです。

信仰者の皆さん、また、ここにおられる皆さん、覚えていただきたいことは、この選択を主イエス・キリストは嫌々したのではないということです。あなたのために喜んでしてくれたのです。イエスはあなたのために来られ、あなたの罪を負って、あなたの身代わりに十字架で死んでくださった、これは主イエス・キリストご自身が、神ご自身が選択なさったことです。

2) 主の埋葬 9節

9節には「主の埋葬」が記されています。「彼の墓は悪者どもとともに設けられ、彼は富む者とともに葬られた。彼は暴虐を行わず、その口に欺きはなかったが。」、イザヤが言うように、このしもべは罪を犯していないから、悪者とともに葬られるような報いを受ける者ではないのです。ところが、人間がこの救い主に対して何をしたのか？人間の選択は、この救い主を悪者とともに葬り去ることです。ですから、彼の墓は悪者どもとともに設けられるのです。それが人間が考えたことです。ところが、イザヤは預言するのです。そのように人間が働いても、主はこのようなことを為さると言います。この救い主はそこに葬られるのではなくて「富む者とともに葬られた」と。富んでいる者とともに葬られるというのです。葬られるところが違うと言うのです。人間がしようとしたことは罪人といっしょに葬ることでしたが、彼が葬られるのは別の所でした。皆さんよくご存じのように、イエス・キリストの埋葬はまさにその通りでした。

人々はイエス・キリストを他の囚人といっしょに埋葬しようとしたのです。ですから、ヨハネの福音書19：31に記されているように「その日は備え日であったため、ユダヤ人たちは安息日に（その安息日は大いなる日であったので）、死体を十字架の上に残しておかないように、すねを折ってそれを取りのける処置をピラトに願った。」のです。つまり、安息日が来るから早くみなを殺してくださいと言うのです。その時にまだ生きていた者がいたら、すねを折ることによって死を早めるのです。そのことを願い出たのです。もし、そのままでもことが進んだら、主イエス・キリストは二人の犯罪人ともに十字架につけられていたので、その結果、三人とも同じような所に葬られるのです。ところが、あることが起こったのです。夕方になって、裕福なアリマタヤのヨセフがやって来るのです。彼はユダヤ人のことを非常に恐れていたとみことばは教えています。しかし、彼はピラトの所に行ってイエスのからだの下げ渡しを願ったのです。マタイの福音書27：57-60に記されています。「夕方になって、アリマタヤの金持ちでヨセフという人が来た。彼もイエスの弟子になっていた。:58 この人はピラトのところに行って、イエスのからだの下げ渡しを願った。そこで、ピラトは、渡すように命じた。:59 ヨセフはそれを取り降ろして、きれいな亜麻布に包み、:60 岩を掘って造った自分の新しい墓に納めた。墓の入口には大きな石をころがしかけて帰った。」、このヨセフはすでにイエスの弟子だったとあります。偶然の出来事なのでしょうか？もし、このヨセフがピラトにイエスのからだを引き取りたいと言わなかったら、イエス・キリストは犯罪人たちといっしょに葬られていたのです。ところが、イザヤが預言したように、ヨセフがやって来てピラトの前に出て、イエスのからだを引き受けたいと申し出て、そして、用意されていた墓へと葬られたのです。

すごいことと思いませんか？イエス・キリストが来られる700年も前に、このようなことになるのだと、救世主に関するイザヤの教え、イザヤの預言は、細部に至るまでその通りに主が導いておられる

のです。偶然に金持ちがやって来たのではないのです。彼が気まぐれに言ったのではありません。その背後にすべてを導いておられ、すべてを支配しておられる主権者なる神がいるのです。このように、埋葬の箇所を見るだけでも、イエス・キリストがだれだったのかははっきりします。彼こそイザヤが預言した救世主です。約束の主です。救い主です。

C. 主のいやし 10-12節

さて、10-12節を見ると「主のいやし」があります。神のすばらしい恵みを語って来たイザヤはこの箇所で、主よっていやされること、主のいやしを改めて記しています。この中で、イザヤは救い主の死について語り、そして、その死によって救われることが記されています。ゆえに、救い主は栄光を受けるにふさわしい方だと述べています。

1. 救い主の死 10a節

10節の初めに「しかし、彼を砕いて、痛めることは主のみこころであった。」とあります。「砕いて、痛めること」とは、すでに見たように「死」のことです。この救世主が死ぬということです。しかし、驚ろくべきことは、この「死」は実は、主なる神のご計画であった、みこころであったということです。この「みこころ」ということばには「喜び、嬉しい」という意味があります。つまり、神はイエス・キリストが十字架に追いやられたことを喜ばれたのです。イザヤはそのことを言ったのです。預言されていたこの救い主を十字架の死に至らせること、実は、神がそれをお喜びになると言うのです。神ご自身がそのことをご計画なさったからです。なぜなら、そのことによってすばらしい祝福が人々に与えられるからです。いやしが人々に及ぶからです。

2. 救い主による救い 10b-11節

10節の後半から「もし彼が、自分のいのちを罪過のためのいけにえとするなら、彼は末長く、子孫を見ることができ、主のみこころは彼によって成し遂げられる。:11 彼は、自分のいのちの激しい苦しみのあとを見て、満足する。わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を彼がになう。」、二つのことばに注目いただきたいと思います。一つは「罪のためのいけにえ」、もう一つは11節に見る「満足する」ということばです。この二つのことばに注意してください。

その保証:

1) 彼は「罪過のためのいけにえ」 10a節

イザヤは言います。この正しいしもべ、この約束の救世主は、人間のためのいけにえ、罪過のためのいけにえだと。もちろん、私たちにはなじみがありません。しかし、ユダヤ人たちにはよく分かりました。なぜなら、神がそのようなことを命じられたからです。たとえば、レビ記5:15に「人が不実なことを行ない、あやまって主の聖なるものに対して罪を犯したときは、その罪過のために、羊の群れから傷のない雄羊一頭、聖所のシェケルで数シェケルの銀に当たるとあなたが評価したものを取って、罪過のためのいけにえとして主のもとに連れて来る。」とあります。つまり、もし、神に対して罪を犯したなら、その赦しを請うために「いけにえ」を連れて来なさい。そのいけにえをあなたの罪の身代わりに罰することによって赦しを得るということです。「罪過のためのいけにえ」です。あなたの罪のためのいけにえなのです。そして、イザヤがここで言ったことは「この約束の主、救い主は罪人のために罪過のためのいけにえとなってください。」ということです。驚ろくべきことです。神が罪人のためにご自分のいのちを「いけにえ」とすることによって、その罪人に罪の赦し、救いをもたらそうとすると言うのです。

私たちが神に対して罪を犯したのです。私たちが神に逆らう選択をしたのです。ところが、神は私たちのためにご自分のいのちを喜んで捨てて、それによってあなたに罪の赦しを与えようとしたと言うのです。割が合いません。でも、それが神の選択だったのです。「罪過のためのいけにえ」とはそういうことです。神ご自身があなたの罪のための「罪過のいけにえ」となられたのです。

2) 神が「満足される」 11節

二つ目は11節に出て来る「満足」ということばです。神ご自身が、ご自分を私たち罪人のための「罪過のいけにえ」となってください。それだけでなく、神ご自身が満足すると言います。つまり、このいけにえによって神ご自身が満足するということです。この救世主の死によって贖いが完成したこと、救いが完成したことに神は満足されるのです。11節の最後に「彼らの咎を彼がになう。」とあります。つまり、ここでイザヤが言うのです。この救い主、この正しいしもべは、罪人のすべての罪を背負ってください。そして、罪人が受けなければならない罪のさばきを代わりに受けてくださる。その結果、彼らはそのさばきを免れ、救いを得ることになると。

この11節に「その知識によって多くの人を義とし」とあります。これは神の知識です。あなたの必要に対する知識です。あなたの救いに関する知識です。このしもべ、この約束の主は、あなたを罪から救い出すために何が必要なのか、何をしなければならないかを知っていると言うのです。どうすれば、あ

なたをその罪から救い出すことが出来るのか、そのことを知っておられると言うのです。だから、どうして主イエス・キリストがこの世に来られたのか、そのことを思い出してください。それが、私たちが罪から救い出す唯一の方法であるということを神がご存じだからです。

I ヨハネ 2 : 2 に「この方こそ、私たちの罪のための、——私たちの罪だけでなく全世界のための、——なだめの供え物なのです。」とあります。「なだめの供え物」ということばも、私たちには聞き慣れないことばです。「神の怒りをなだめる」ことです。私たちはもしかすると、はき違えているかもしれません。神は愛の神であり、何をしても赦してくださる神であると。この世の中の罪を見て、神は「まあ仕方がない」と言われているのでしょうか？それは大きな間違いです。神は罪を憎んでおられます。どのような罪も憎んでおられます。そして、警告を発しておられます。「罪は必ずさばく」という警告です。

「神ご自身が罪をさばく」という警告です。神は罪を見てその罪を怒っておられるのです。そして、その怒りをなだめるためにいけにえがささげられたのです。このしもべはそのいけにえでした。自らをささげることによって、それをご覧になった神ご自身が怒りをなだめられたのです。なぜですか？そのいけにえは神のすべてを満足させ、すべての罪人の罪の赦しに価するものだからです。もし、このいけにえが不十分だったなら神は決して満足なさらないし、神の怒りは止むことはありません。でも、このいけにえが十分だったから神の怒りが止み神は満足されたのです。

皆さん、あなたが受けるべきその罪のさばき、そのすべてをイエス・キリストがあなたに代わって味わってくださったから、あなたも私も神のさばきから完全に逃れることが出来るのです。なぜなら、イエス・キリストの十字架によって、信じたあなたのすべての罪はもう完全に赦されたからです。神はあなたの罪に対して怒っておられないのです。

どうして主イエス・キリストはこの世に来たのでしょうか？どうして主イエス・キリストは十字架に架かったのか？どうして主イエス・キリストはそこからよみがえって来られたのか？この方法しかなかったからです。あなたの罪に対して怒りを覚えておられる神のその怒りをなだめるためには、だれかが身代わりとなって死ぬことが必要でした。そして、それを喜んで神ご自身がしてくださったのです。この方法しかあなたを救うすべがなかったから、主はその選択をなさったのです。

イザヤはそのことを私たちに教えてくれるのです。この世に来られる救い主なるお方は、私たちの罪過のための神へのいけにえであり、そして同時に、この方のいけにえによって神ご自身が満足なさるのです。言うまでもありません。主イエス・キリストの十字架はまさにそうでした。イエスが十字架の上で最後に言われたことがヨハネ 19 : 30 に記されています。「イエスは、酸いぶどう酒を受けられると、「完了した。」と言われた。そして、頭を垂れて、霊をお渡しになった。」、息を引き取る直前です。ある人は言うかもしれません。愛する家族に最後に別れを言う、感謝を述べると。ある人は「こんな大変な酷い目に合わせて…」とののしるかもしれません。いろいろな息の引き取り方があるでしょう。しかし、イエス・キリストは息を引き取る前に「すべてが完了した。すべてが終わった。」と言われたのです。まさに、最後の最後にイエス・キリストが発せられたおことばは「勝利の宣言」です。「罪人に一番必要な救いをもたらすためにわたしはこの世に来て、そして、わたしはその一人ひとりに救いを与えるために自分のいのちを犠牲にして、そして、今まさに、そのすべての杯を飲み干そうとしている。わたしが死を迎えるこのときに、わたしはこう言う。「あなたのための救いはわたしが100%備えたと。」救いのみわざは完成したのです。その宣言を主イエス・キリストは十字架の上でなさいました。この世に来られた目的をイエスは達成なさったのです。

マタイの福音書 20 : 28 でイエスはこのように言われました。「人の子が来たのが、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためであるのと同じです。」、贖いの代価として、あなたを救い出すために、イエスはご自分のいのちという代価を支払ったと言うのです。ヨハネ 3 : 17 でも「神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。」とされています。イエス・キリストがこの世に来られたのは、この約束の救世主と同じように、私たちが罪から救うためです。そして、イザヤが預言したように、主イエス・キリストは私たちの罪過のためのいけにえとなり、ご自分の尊いいのちを捨ててくださることによって救いを完成してくださったのです。その十字架は神の怒りを満足させるものでした。あの十字架は神の怒りを鎮めるものでした。つまり、あなたのすべての罪を完全に赦すことがお出来るようになる、その力を持っているということです。私たちがイエス・キリストの死について見るときに、まさに、イザヤが預言した救世主、それがイエス・キリストであることは明らかです。

◎復活の預言：死に勝利される神

12 節に進む前に、もう一つ見ていただきたいのは、10 節の後半に「彼は末長く、子孫を見ることができ、」と記されているところです。これはこの救世主が子どもを産んで、その子孫が増え広がって行

くということではありません。肉体のことではなく霊的なことです。「復活」のことです。なぜなら、死んだ者が自分の子孫を見るためには、その死からよみがえって来なければいけないからです。ですから、イザヤは言います。「来られるこの救世主は確かに死なれるけれど、それで終わるのではなくて彼はよみがえってくる。」と。イエスは確かによみがえって来られました。ゆえに、私たちは主イエス・キリストの復活から二千年経った今も、イエス・キリストの復活をこのように祝っているのです。毎週私たちはそれを記念して礼拝をささげているのです。

先ほど見たヨハネ10章18節の後半でイエスはこのように言われています。「…わたしには、それを捨てる権威があり、それをもう一度得る権威があります。」と。「捨てる権威があり」とは「死」のことです。そして、「それをもう一度得る権威があります。」と、つまり、「よみがえり」のことです。イエスはここで、わたしは死からよみがえるその力を持っていると言われています。死に対して勝利するその力をお持ちの方、つまり、ご自身が神であるということを明らかにしておられるのです。人となられた神ゆえに、信じる一人ひとりに救いが与えられるのです。そのことをイザヤが預言し、そして、私たちがイエス・キリストのメッセージを聞くときに、このイエス・キリストによって救いが与えられる、なぜなら、彼こそがその約束の救い主だからと、そのことを見ることができなのです。

3. 救い主の栄光 12節

そして三番目に、12節に「救い主の栄光」についてイザヤは述べています。主によって私たちは罪が赦されます。いやされます。そのために救い主が死んでくださり、そして、その救い主を信じる信仰によってこの救いに与るのです。ゆえに、この方はすべてのものから栄光をお受けになるにふさわしいお方であると述べています。

◎救い主がほめたたえられる理由

1) 救い主だから

「それゆえ、わたしは、多くの人々を彼に分け与え、彼は強者たちを分捕り物としてわかちとる。」と、最初に描かれているのは、戦いに勝利したときの様子です。戦いを挑んだ後、勝利者がその敗者を分捕り物としてわかちとり、そして、勝利の行進に引いて来るのです。その様子を記しています。つまり、この救世主は勝利者だと言うのです。何に対する勝利者なのでしょう？ 私たち人間が、私たち罪人がどうすることもできない敵に対する勝利です。私たちは罪の奴隷です。私たちはこの罪の力に勝つことができません。でも、この救世主はその罪の力を打ち破ってくださるのです。私たちは死に対して無力です。この救世主はその死の力を打ち破って勝利を与えてくださるのです。ですから、イエス・キリストを信じた私たち一人ひとは、イエス・キリストがイザヤが預言した救世主であるゆえに、「私は死んでも生きる。私は永遠を神とともに生きる。」という確信をもって生きています。なぜですか？ 罪が赦されたからです。神によって救われたからです。死に打ち勝たれた、罪に打ち勝たれた神が私の神だからです。その確信をもって私たちは生きることができなのです。

2) とりなしの主だから

ご自分が勝利者であるだけでなく、信じる者に勝利を与えてくださる。そしてもう一つ、この方がほめたたえられる理由があります。「彼が自分のいのちを死に明け渡し、そむいた人たちとともに数えられたからである。」、この方の贖いのみわざです。そして、「彼は多くの人の罪を負い、そむいた人たちのためにとりなしをする。」とあります。イザヤが言うことは、このお方は「とりなしの主」であるということです。この約束の主は、彼を信じるすべての人にすばらしい救いを与えてくださり、それだけではなく、私たち一人ひとりのために祈り続けてくださっているとイザヤは言うのです。新約聖書を見ると、私たちはそれこそが主イエス・キリストが今私たちのためになしてくださっているみわざであることに気づきます。覚えておられるように、主イエス・キリストは私たちのためにとりなしていただくことがみことばの中に記されています。I ペテロ3：18「キリストも一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなったのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、私たちを神のみもとに導くためでした。」、ローマ人への手紙8：34「罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしていただくのです。」、ヘブル人への手紙7：25でも「したがって、ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことができになります。キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。」とあります。

信仰者の皆さん、今私たちはイザヤ書のみことばを見て来ました。そして、新約聖書からイエスの為さったみわざを見て来ました。その結果、私たちは明らかにイザヤが教えた、イザヤが預言した、来られるはずの救世主はイエス・キリストであるという確信を持つことができます。そして、私たちはその確信をもってイエスの為さったみわざを覚える時に、創造主なる真の神が、人となって来てくださり、

あなたのすべての罪をその方が自ら背負って十字架に架かってくださり、そして、いのちを捨ててくださり、あなたのために完全な救いを備えてくださり、そして、その救いへとあなたを招いてくださった。そして、あなたを救っただけではない、その救い主は、あなたのために今も祈り続けてくださっている…。これはどのような恵みでしょう？神がここまであなたのためにしてくださっているのです。この方はあなたを見捨てることなく、あなたを引き離すことなく、あなたと常にともにいてくださり、そして、あなたを確実に神のもとへと召してくださるのです。しかも、私たちがどれほど弱い者であり、罪深い者であり、愚かな者であるか知っておられる神は、その私たちのために日々とりなしの祈りをささげてくださいしているのです。私たちはこれほどの祝福をいただく者でしょうか？なぜ、こんなにすばらしい祝福を私たちはいただいているのでしょうか？

信仰者の皆さん、だから、この方はすべてに勝ってほめたたえられる価値があるのです。私たちは声を大にしてこの方をほめたたえるのです。なぜなら、私たちがもっているこのすばらしい救いはすべて神のみわざだからです。そして、私たちが天国に行くというすばらしい約束も、すべて神が為してくださったみわざゆえです。そして、なぜ、このように弱い私たちをこの地上に置いてくださり、その私たちを使って栄光を現わそうとしておられるのかよく分かりませんが、分かっていることは、それが神の計画であり、そして、それを私たちが為して行くために、この方があなたのために祈り続けてくださっているということです。私たちも心から「ハレルヤ！」と言いませんか？「神さま、あなたに心から感謝します」と。

黙示録の最初のところには、主イエス・キリストを称えるシーンが幾つか出て来ます。24人の長老たちがこの主を心からほめたたえると、御前にひれ伏して永遠に生きておられる方を拝み、自分の冠を御座の前に投げ出してこのように言います。この24人の長老たちは贖われた教会のクリスチャンたちのことです。それは私たちです。あなたです。私たちが主イエス・キリストの前に立つ時に何をするのか？私たちはこの方の前にひれ伏して賛美をささげるのです。黙示録4：11を見てください。「主よ。われらの神よ。あなたは、栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方です。あなたは万物を創造し、あなたのみこころゆえに、万物は存在し、また創造されたのですから。」、そして、また続きます。大声で天使たちもともになって言います。5：12「彼らは大声で言った。「ほふられた小羊は、力と、富と、知恵と、勢いと、誉れと、栄光と、賛美を受けるにふさわしい方です。」「イエスさま、あなたはすべての称賛を受けるにふさわしい方です。なぜなら、あなたの為してくださったそのみわざがこのような祝福を私にもたらしたからです。すべてはあなたのみわざだからです。私たちはあなたを心からほめたたえます。」と。この救い主イエス・キリストはこのような称賛に値する方だと思いませんか？あなたのために死んでよみがえられた救い主、私たちのすべてをもってこの方をほめたたえる、その価値があるお方だと思いませんか？そのようにして信仰者は生きて来たのです。それを喜び、それを誇り、救い主を宣べ伝え続けたのです。

このイースターの日に、信仰者の皆さん、救い主はもう来られたのです。救いはもう備えられたのです。そして、救いに与った私たちは、そのすべての恵みを覚えてこの方を心から称えることです。私たちはそうして生きて行くのです。まだ、この救いをお受けになっていらっしゃらなければ、救いは備えられています。救いを求めて出て来ることです。その時に、主はあなたにこの救いを備えてくださる。それほど主はあなたを愛して、これだけの犠牲をもってあなたにこの救いを与えようとしてくださっているのです。この方の前に救いを求めて出て来てください。その時に、主はあなたを生まれ変わらせます。そして、いっしょにこの方を称えましょう。

《考えましょう》

1. 主イエスはあなたのために何をしてくださいましたか？
2. 主イエスを信じることによって罪が赦されるのはどうしてですか？
3. 主イエスがイザヤが預言していた救い主であることを、あなたはどのように証明なさいますか？
4. この栄光の救い主があなたに何を求めておられると思いますか？